

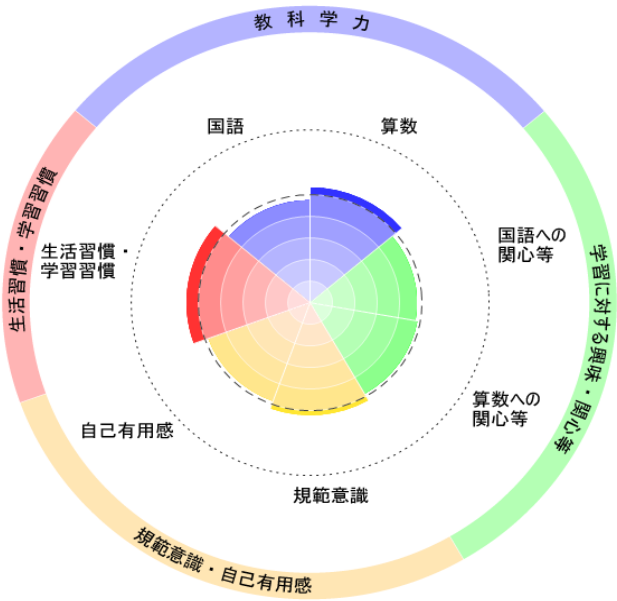
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○話すこと・聞くことの領域での平均正答率が全国より4ポイント高い。日頃のスピーチ活動の成果だと考えられる。 ○記述式の問題では無回答率が全国より低いものも多く、また平均正答率が全国より高いものが多い。自分の考えをまとめて書く学習を様々な場面でやってきた成果だと考えられる。 ●文脈に合う意味の漢字を書く問題では、以前に学習した漢字を忘れていたり同音異義の漢字を書いたりする傾向がある。 ●文脈に合う漢字を書く問題では、無回答率も高い。	・漢字の成り立ちカードを授業の中で活用したり、同音異義の漢字の使い分けを授業で扱う。 ・校内での漢字テストや宿題での繰り返し学習を効果的に行う。
算数	○数と計算の領域では4ポイント、量と測定の領域では1ポイント、数量関係の領域では3ポイント、全国よりも平均正答率が高い。チームティーチングによるきめ細かな指導を積み重ねてきた成果だと考えられる。 ○ほぼ全ての問題で、無回答率は全国と同じか、全国より低い。自分の考えを書く習慣ができていると言える。 ●図形を構成する問題では、全国より6ポイント平均正答率が低い。 ●計算の仕方についてまとめた文章を解釈し、それを基にして別の計算の仕方をまとめる問題では、全国より3ポイント平均正答率が低い。	・図形領域では、授業で十分な算数的活動を行う。また、答えが一つではない可能性がある問題も扱う。 ・式の意味を言葉で説明する場面、学んだキーワードを使って授業の振り返りをする場면을授業の中で積極的に作っていく。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○算数の問題の解き方が分からない時にあきらめず色々な方法を考えると答えた児童や、公式や決まりを習う時そのわけを理解するようにしていると答えた児童の割合が全国よりも高い。 ○毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりする児童の割合、学校のきまりを守っていると答えた児童の割合が全国より高い。 ●自己有用感が全国より低い。 ●発表の時に自分の考えがうまく伝わるよう工夫したと考える児童の割合が全国より低い。	・教員が、児童一人一人の学び・暮らしの様子をよく見るように心がける。分からないと言える雰囲気づくりや、定着の時間を取り「できた」「わかった」喜びを実感できるようにする。 ・発表の時には肯定的な声かけをし、自信が持てるようにする。また、表現の土台となる語彙が豊かになるよう、読書や言葉の指導により一層取り組む。

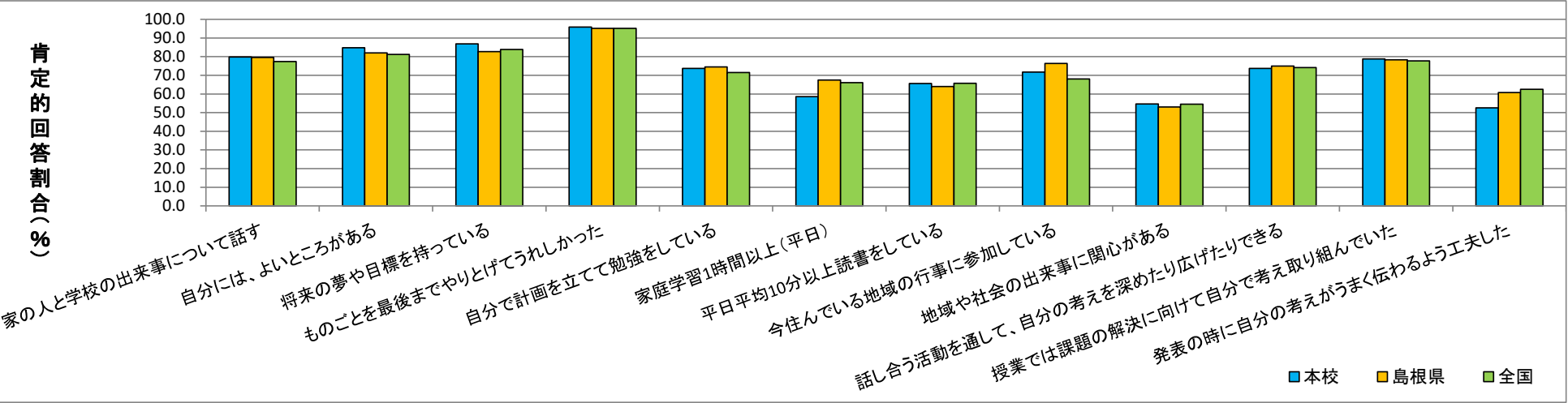
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・同音異義のある漢字が出てきた場合は意味理解や使用方法について授業の中で扱い、定着をはかる。
・図書館教育や本校の研究主題である「言葉の豊かなこしらっ子」に全校で取り組み、低学年から言葉の力、表現力が身に付いていくようにする。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	61	63	62	63.8
算数	69	66	65	66.6

受検者数 97 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。